

暑さ寒さ彼岸まで

暑さ寒さも彼岸までと言いますが、この頃の気温は、暑からず寒からず極楽のイメージをしていると言う説もあります。毎年、お寺では、境内地に香煙がただようさまは、実にほつとします。秋分の日、祖先を敬い、亡くなった人を偲ぶと昔から伝えられています。祖先によって命がもたらされて、自然の「恵みでいかされていることを感謝することでお彼岸があります。

私たちが人間には眼耳鼻舌身意という五感であらゆる命を共鳴しあっています。きれいな景色を見る、収穫物の味あう、香りを楽しむ、身心で感じられるのです。いちばん最初の命から今現在の一人ひとりまで気の遠くなるような長い間命のリレーによって存在する自分です。遠い昔から命の糸がきれいに皆さんまでがつながっていることです。



人は皆、一人だけの力でいくことができませんし、自分だけの為だけに生きるではありません。お互いが他者に力を与えると共に、その支えともなっています。こそその人間なのです。

そのお彼岸では、自分を見つめ、そして祖先を敬うという大切な週間ではないかと考えます。

高島共同大蔵経の厳修

日時 十月十九日(土)、二十日(日)、
場所 新旭 太田 西方寺

今年も、高島の一大行事が新旭の西方寺で行われます。

この法要は、開祖真盛上人の御遺徳を偲び、また高島の歴代の先徳や壇信徒の先人の功績をたたえて、今の人々の安穩なる暮らしが続けられるように感謝の心を起こせる法要です。

西方寺の住職を始め、壇信徒様が丸になつて、準備されてきました。かわいいお稚児さん、婦人会によるご詠歌を奉納されますので、是非お参りください。

ブツダの 小ばなし

「塩はおいしい」

ここは、とある大金持ちの家です。お昼時になったので、主人が食事を取っています。しかし主人はこの日の昼食に不満なようです。

「今日の料理は味がうすいな、…おいしい塩をもつてこい。」

使用人に塩をもつてこさせました。その塩をかけて口にしたら、ニッコリとしました。

「これでうまくなった。」

この様子を見ていた人がいました。

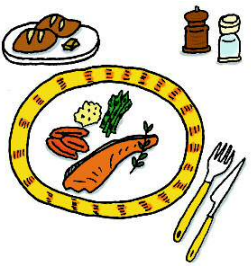
「そうか、塩って少しでもおいしいのか。たくさんあればもっと美味しいんだらうなあ。」と



塩だけを口いっぱいにはおば

りました。

「なんじやこりや・・・」



ブツダのおしえ

食べ過ぎに気をつけて少食でいれば、正しい道を得られる、と聴いた信者の人々には、仏道修行で断食をするものがあります。しかし、そんな修行しても、いたずらにおなかがかすかせるだけで悟りを開くのになんの役にも立ちません。料理は少しの塩でおいしくなるのに、おいしいと思つて塩だけを食べると同じ事です

正座から学ぶ

皆さんは普段正座をして座ることがありますか？

最近はどこでも椅子があり、多くの方は家でもソファーに腰掛けるなど、正座をして座るという機会が少なくなつたように思います。

正座をするのは武道や茶道などをされている方や、お坊さんくらいかもしれません。

お寺の修行において、必須とも言える正座ですが、これがなかなか辛いことのひとつです。

お勤めでお経を読む時は当然正座なので、時間が経つにつれて、足がしびれて痛くなります。

よく、お檀家さんに「長い時間正座をしていて足が痛くならないのですか？」と聞かれます。

「私も皆さんと同じように足がしびれますし痛いのですが、その痛みに慣れていただけなんです。」と答えます。

「なるほど」と理解されますが、この正座をするという事は、礼儀作法や精神修行という意味の他にも、考えさせられます。

正座を自分の人生に例えると、受ける痛みは生きることの中の様々な苦難の出来事を表します。

その痛みをやわらげるために、時々足を動かしてしびれを取ります。

これは楽を得るために自分が苦しみから抜け出る解決策を考えることに似ているのです。

正座は痛くて当たり前なので、辛いことが自身に起こることも

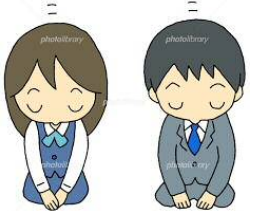
あるということに自覚しなくてはいけないのです。

そして、その苦難をどう乗り越えていくかを考え、最善の努力と判断をすることです。

我慢をして耐えるのか、時には足を崩して痛みをとるのかを選んで下さい。

足を崩すということは逃げるわけではなくて、一旦離れてください。

痛みがやわらいだ時点でまた正座に戻ればいいのです。



御十夜の予定

十一月九日(土) 午後一時半
説教もありますので是非お参りください。

法話会

方開で、だ
希望のす
ご本堂を
には、ま
けてま
連絡し
さい。
「玉泉寺住職日記」の更新を毎日ご覧下さい。

びんずる会の活動に参加しませんか

写経、奉仕、座禅をして、心の修養をします。皆様のご参加をお待ちします。参加してみようと思われる方は、「一報下さい。」

発行者 高島市安曇川町田中三四五九

天台真盛宗玉泉寺 木村 哲基

電話 〇九〇—三七〇八—七二〇六

FAX (〇七七)五〇二—二二七九

Eメール svka37375@eto.eonet.ne.jp

新Eメール info@gyokusenji.com

ホームページ「滋賀高島石仏の玉泉寺」と「玉泉寺住職日記」をご覧ください。

新Eメール info@gyokusenji.com